

2022年11月11日

デジタルトランスフォーメーションの推進強化について ～日本IBMとの戦略的パートナーシップ締結と次世代基幹系システムの構築～

株式会社ふくおかフィナンシャルグループ（取締役社長 五島 久、以下「FFG」）は、FFGのデジタルトランスフォーメーションへの取り組み（以下「DX戦略」）を加速させるため、日本アイ・ビー・エム株式会社（代表取締役社長 山口 明夫、以下「日本IBM」）と協働して下記のとおり取り組むこととしましたので、お知らせいたします。

記

1. 日本IBMとのDX戦略の推進に向けた戦略的パートナーシップ契約の締結

FFGでは、デジタル技術の進展に伴うお客さまの行動変化や社会構造の変容に柔軟に対応するため、デジタル技術を積極的に活用してFFG自らが自己変革する「デジタルトランスフォーメーション」の推進に取り組んでおります。第7次中期経営計画では、「～カタチは変わる。想いは変わらない。～」をスローガンに掲げ、「iBank」や「みんなの銀行」での経験も活かしながらデジタルチャネルの構築などの新たな成長投資を実行することで、コアビジネスの持続的な成長を目指してまいります。

今般、FFGは、こうしたDX戦略を更に加速させることを目的として、日本IBMと戦略的パートナーシップに関する基本契約（以下「本パートナーシップ」）を締結しました。本パートナーシップは、FFGおよび日本IBMが、デジタル技術の力を活用して銀行業務のすべてを見直し、事務・営業の生産性向上と顧客体験価値の最大化を目的とした営業変革に協働して取り組むことに加え、銀行ビジネス自体を変革することで、FFGが新たな価値創造を実現する組織となることを共通の目的としております。その目的達成のために、FFGおよび日本IBMは、双方が有するリソースや知見を共有し、相互に協力しながらDX戦略を推進してまいります。

ロ 本パートナーシップにおける取り組み

● 協働体制によりDX戦略を加速させ、コアビジネスの成長を図ります

FFGは、顧客利便性と業務生産性の飛躍的な向上を目指し、日本IBMと協働して、個人向けアプリ、法人ポータルサイトといったデジタルチャネルの構築に取り組めます。デジタルチャネルを通じて、お客さまの課題を的確に捉えた魅力的なサービスを提供し、多様化するお客さまのニーズに迅速に対応する「お客さま本位の次世代型営業」を展開することで、コアビジネスの持続的な成長に繋げてまいります。また、日本IBMは、DX戦略のパートナーとして、FFGと同一拠点で活動し、リソース・経験・技術をより効果的に提案・提供することで、戦略策定から開発まで一気通貫のスピーディーなソリューションを提供します。

● デジタル人財の育成、内製化体制の構築、および全体最適なITアーキテクチャーの検討により組織力強化を図ります

FFGおよび日本IBMは、デザイン思考、アジャイル開発などの研修やOJTを実践することで、将来的な新しい価値創造の実現に向けてFFGのデジタル人財育成に協力して取り組むとともに、従業員エンゲージメントが高まる働き方、組織風土改革など、DXを通じたFFGの組織改革にも積極的に取り組んでまいります。

また、FFGの内製化体制の構築に向けて、IBMのグループ会社であるRed Hat社のアジャイルトレーニングを採用し、デジタル人財の育成を通じたサービス開発力の強化にも努めていく予定です。加えて、統合された顧客体験やデータ戦略において必要となる全体最適化されたITアーキテクチャーのあり方についても検討し、新時代の金融デジタル基盤の構築に向けた取り組みも推進してまいります。

2. 次世代基幹系システムの構築に向けた取り組み

FFGは、基幹系システムを「DX戦略によるコアビジネスの成長」を実現するための最重要インフラと位置づけ、安定稼働や高いセキュリティに加え、将来の変化に柔軟かつスピーディに対応できる次世代基幹系システムの構築に着手いたします。

具体的には、FFGが基幹系システムに求める「安全性」「柔軟性」「効率性」を高いレベルで実現するため、FFGのDX戦略のパートナーでもある日本IBMが掲げる「金融次世代勘定系ソリューション戦略」を採用し、2段階のフェーズで段階的に取り組んでまいります。これにより、システムリスクやお客さまへの影響を最小限に抑え、DX戦略の推進と並行して次世代基幹系システムの構築を実現いたします。

ロ 次世代基幹系システムの構築に向けたロードマップ

▶ 1stフェーズ：基幹系システムのモダナイゼーション※（2022年度～2026年度）

※モダナイゼーション：これまでの資産を活かしながら新しい技術的要素を取り込み、現代的なシステムへ置き換えること

FFGは2022年度～2026年度の期間で、株式会社広島銀行（代表取締役頭取 清宗 一男、以下「広島銀行」）、日本IBMおよびキンドリルジャパン株式会社（代表取締役社長 上坂 貴志）と共同で基幹系システムのモダナイゼーション（以下「本件モダナイゼーション」）を実施いたします。

本件モダナイゼーションでは、DX施策に柔軟に対応できる基幹系システムを目指し、①勘定系・情報系プログラムの複雑性解消やオープン化の推進等による効率化、②勘定系と各種チャネル層との接続性を格段に向上させる基盤の新設や、API拡充による高度化を行い、次世代基幹系システムへのスムーズな移行に備えます。

▶ 2ndフェーズ：次世代基幹系システムの実現（2032年度（目標））

本件モダナイゼーションの完了後、2ndフェーズとして次世代基幹系システムの実現に取り組めます。

基幹系システム基盤は、信頼性の高いメインフレームや柔軟性の高いオープン/クラウド基盤など多様な選択肢の中から、FFGの戦略に最適な組合せによるHybridプラットフォームへと進化させます。また、システム機能においても、日本IBMが持つAIや量子技術等の最先端技術を活用し、次世代基幹系システムを実現してまいります。

なお、広島銀行は2030年度に「MEJAR」スキーム※へ移行することを決定しているため、それ以降のシステム運営は個々に行うこととなりますが、ビジネス面における重要なパートナー行としての協力関係は継続してまいります。

※横浜、東日本、北陸、北海道、七十七が参加するNTTデータの共同化スキーム

	2022年	2026年度	2032年度（目標）
ロードマップ	現状	本件モダナイゼーション	次世代基幹系システムの実現
	-	<ul style="list-style-type: none"> フロント領域のDX対応強化（'23年度完了） 次世代への移行容易性確保 	<ul style="list-style-type: none"> FFGの戦略に最適な、自由度の高い次世代基幹系システムを、みんなの銀行での経験も活用のうえ実現
システムの特徴	<ul style="list-style-type: none"> 第3次オンラインがベース 	<ul style="list-style-type: none"> マルチバンク化、複雑化改善 DX基盤強化（API拡充、データ即時連携） 	<ul style="list-style-type: none"> 最適なHybridプラットフォームの採用 最先端技術を活用した機能高度化
体制	広島銀行とFFG 3行での共同化運営（～2030年度）		FFG3行での運営（2031年度～）

以上

《 本件に関するお問合せ先 》

株式会社ふくおかフィナンシャルグループ

【戦略的パートナーシップの契約締結に関する事項】 DX推進本部 DX企画グループ TEL 092-723-2577
 【次世代基幹系システムの構築に関する事項】 IT統括部 IT企画管理グループ TEL 092-723-2471

- FFG\ØDX 1

® *f* < û f L ú]]!].]H\Ø ! #\Õ 1\»\É \ô L\é

[P ... \ DX\Ø Ó \$ ò\Õ\1\»\õ iBank 7\é\ý\Ô\Ø ·\Ø £ ÷

